

【 短 歌 。 俳 句 。 川 柳 】

短 歌

使うほどスマホ漢字を忘れさせ

日々の日記が億劫になり

●印西市 山田 明

シルバーの熱中症対策に没頭し

我家の中で熱中症寸前に

●狛江市 佐々木洋三

仕事終え自動販売機立ちよって

飲む点滴甘酒をのみ

●狛江市 根方一吉

たゞ捨つることも惜しくて欄外も

書いて埋めるペン字の教本

●東京都神津島村 石田希代子

シャボン玉妖精となり舞う空に

君が追いたる夢へと誘う

●平塚市 田中博由

歳かさね未だやめられぬ草木刈り

見合す笑顔景色晴ばれ

●富士市 田中勝雄

五月晴山野の緑鮮やかに

東風吹きたりて心和みし

●福知山市 峠尾 充

点滴の落ちゆくさまを友と見ゆ

音なき世界に快方を祈る

●茨木市 田中そや子

どこまでも夏野を歩む遍路へと

出かけりや体重減るかもしれぬ

●明石市 小田和子

田植え時田んぼがあればなあなどと

考えながらふるさと思ふ

●明石市 小田慶喜

小^{ちい}バツタ彼方に遠く飛び跳ねて

後から後に光り輝く

●南あわじ市 小川千富

一直線に空を突き切る飛行機雲

無心の姿が吾れ見習いたい

●香芝市 高田尚昭

俳 句

水張りて雨よぶつばめ畔青む

●神戸市 安澤宏介

万緑のシャワー浴びたく引き返す

●小山市 原田利江

蜘蛛の巣や青空結ぶ夕山河

●本庄市 入 利雄

夏の雲かなたの山のかなたへと

●本庄市 長谷川千鶴子

さくらんぼ初物なのと手のひらに

●草加市 長谷部禎子

金魚鉢あじさい浮かべ万華鏡

●戸田市 稲田隆博

性格は一途のけはひ水羊羹

●戸田市 篠崎志津子

木苺やひっそり強く美しく

●武蔵村山市 原野晴光